

H26年度文化庁委託事業-NPO等による文化財建造物の管理活用事業
**木造文化財建造物総合防災ネットワーク事業
 公開研究会**

NPO法人 関西木造住文化研究会

**木造文化財建造物総合防災ネットワーク事業
 趣旨・背景**

- 「文化財建造物」の種類と数が急増してきた。建物の使われ方、管理などの条件も、さまざまである。
- 「文化財建造物」をおびやかす災害の種類も、いろいろになってきた。豪雨、地震、大雪の頻発、治安の低下も、心配だ。

木造文化財建造物・さまざまな災害



**木造文化財建造物総合防災ネットワーク事業
 趣旨・背景**

- 「文化財建造物」の種類と数が急増してきた。建物の使われ方、管理などの条件も、さまざまである。
- 重要文化財(重文。但し国宝も含む)、市等の指定文化財、登録文化財、重要伝統的建造物保存地区の伝統的建造物(伝建物)などがある。非木造を含め、計約3万棟。
- 重文は、数を限定して、防災を含む保存を手厚く行おうとしてきた。
- 登録文化財・伝建物は、数が多く、活用法もまちまち。重文のような防災対策には無理がある。

木造文化財建造物総合防災ネットワーク事業 趣旨・背景

- 「文化財建造物」をおびやかす災害の種類も、いろいろになってきた。豪雨、地震、大雪の頻発、治安の低下も、心配だ。
- 水害・土石流・倒木・大雪などで、木造文化財建造物が大きな被害を受ける例が増えている。
- 大雪・倒木などは、管理次第で被害を予防できそうだが、管理者の世代交代などで、どう管理すれば良いかわからなくなっている。
- 防災には、多くの取組があるから、それを応用すれば良さそうである。しかし、そのままでは「木造文化財」には、なかなかあてはまらない。都市開発と一体で進んできた防災技術は、概して新築・近代建築指向。「建物の価値を守る」という発想は、近代の防災技術には乏しい。

木造文化財建造物総合防災ネットワーク事業 趣旨・背景

- 文化財建造物もさまざま、災害もさまざま、文化財防災の目標は普通の建物と違うとなると、文化財防災全般に答を出せる人はいない。
- 研究分野・職能という観点からみても、文化財防災だけをやっていくような人は、今後も育たないだろう。
- でも、木造の防災に詳しい専門家はいる。土石流、水害、雪等の対策に詳しい専門家もいる。そういう人たちと、木造文化財建造物の持ち主、行政担当者などのコミュニケーションと情報共有を図っていけば、文化財防災のいろいろな問題に答を出していけるようになるだろう。
- それを通じて、文化財防災の分野が育つようにしていきたい。

木造文化財建造物総合防災ネットワーク事業 趣旨・背景

- 文化財建造物の持ち主、行政の文化財担当者は、防災が気になっても、どこにどう相談して良いか、わからない。
- フツワーの工務店・コンサルに尋ねても、普通の木造の補強や修理の話をされたりする。
- 学者に聞こうと思っても、誰に聞いてよいかわからない。
- 実際に災害が起こっても、結局、再発や将来の対策に結びつくような調査がされないまま終わってしまうことが圧倒的に多い。

公開研究会の位置づけ

- 公開研究会は、木造文化財建造物防災について、どんな建物でも直に役立つ実用的な知識を広める場ではありません。今のところ、そんなものは、どこにもありません。
- 木造文化財建造物に関する災害調査、防災計画などの取組の事例を、その経験者に紹介して頂き、それを手がかりとして、他の建物ではどう防災に取り組めば良いのか、今後、取り組むべき防災対策は何かなどについて、意見を出し合っていく場です。
- また、それを契機に、木造文化財建造物の持ち主や行政担当者、保存に携わる設計者・施工者が、各種防災の専門家に相談したり、関連分野の研究者が文化財防災の研究に取り組める環境が育つことを期待しています。